

平成24年度第1四半期報告の概況について

三井生命保険株式会社（代表取締役社長 山本 幸央）の平成24年度第1四半期報告の概況につきまして、以下のとおりお知らせいたします。なお、数値の詳細は、本日付ニュースリリース「平成24年度第1四半期報告」をご覧くださいませよう、お願い申し上げます。

【契約の状況（個人保険および個人年金保険）】

- ◇ 新契約年換算保険料は、お客さまの貯蓄ニーズの底堅さを受けて個人年金保険の販売が増加するとともに、個人保険についても前年同期を上回った結果、前年同期比**8.6%増**の**74億円**となりました。
- ◇ 解約・失効年換算保険料は、前年同期比**11.7%減**の**59億円**、解約・失効率は、前年同期から**0.11ポイント改善**の**1.19%**となり、引き続き改善しております。
- ◇ 保有契約年換算保険料は、解約や満期等の減少が新契約を上回っており、前年度末比**0.6%減**の**5,324億円**となりましたが、減少のペースは着実に改善しております。

【損益の状況】

- ◇ 保険料等収入は、個人保険および団体年金保険の保有契約減少により、前年同期比**5.0%減**の**1,354億円**となりました。
- ◇ 平成24年度第1四半期中の金融環境の悪化により、**基礎利益**は、変額年金保険等の最低保証に係る責任準備金の繰入額増加を主因として前年同期から**113億円減少**の**▲103億円**（最低保証に係る要因を除いた**基礎利益**は**7億円**）となり、また、有価証券評価損を**130億円**計上した影響から、**69億円**の経常損失、**83億円**の四半期純損失となりました。

【主要指標の状況】

- ◇ 有価証券含み損益は、金利低下により国内公社債の含み益が増加したものの、国内株式市況の低迷に伴う国内株式の含み損益悪化等により、前年度末から**30億円減少**の**1,344億円**となりました。
- ◇ ソルベンシー・マージン比率は、その他有価証券の含み損益が悪化したこと等により、前年度末から**7.9ポイント減少**して**478.8%**となりました。また、**実質純資産額**は、四半期純損失を計上したこと等により、前年度末から**98億円減**の**4,649億円**となりました。

1. 契約の状況〔個人保険＋個人年金保険〕

(単位:億円、%)

区分	平成23年度 第1四半期累計期間	平成24年度 第1四半期累計期間	前年同期比 増減率
新契約年換算保険料	68	74	+ 8.6

(単位:億円、%)

区分	平成23年度 第1四半期累計期間	平成24年度 第1四半期累計期間	前年同期比 増減率
解約・失効年換算保険料	67	59	▲ 11.7
解約・失効率〔年換算保険料ベース〕	1.30	1.19	0.11ポイント改善

(単位:億円、%)

区分	平成23年度末	平成24年度 第1四半期会計期間末	前年度末比 増減率
保有契約年換算保険料	5,357	5,324	▲ 0.6

- (注) 1. 年換算保険料とは、1回あたりの保険料について保険料の支払方法に応じた係数を乗じ、1年あたりの保険料に換算した金額です(一時払契約等は、保険料を保険期間で除した金額)。
 2. 新契約には、転換による純増加を含んでいます。
 3. 解約・失効の数値は、失効後復活契約を失効と相殺せずに算出しています。

2. 損益の状況

(単位:億円、%)

区分	平成23年度 第1四半期累計期間	平成24年度 第1四半期累計期間	前年同期比 増減率
基礎収益	2,213	2,498	+ 12.9
うち保険料等収入	1,425	1,354	▲ 5.0
基礎費用	2,202	2,601	+ 18.1
基礎利益(▲は損失) ①	10	▲ 103	—
逆ざや額	▲ 162	▲ 188	+ 15.8
危険差益	178	99	▲ 44.1
うち最低保証に係る要因(注) ②	▲ 35	▲ 110	+ 213.3
費差損益	▲ 5	▲ 14	+ 183.2
キャピタル損益	74	46	▲ 37.1
うち有価証券評価損	8	130	+ 1,506.3
臨時損益	▲ 9	▲ 13	+ 45.5
経常利益又は経常損失(▲)	76	▲ 69	—
特別利益	0	0	▲ 97.4
特別損失	5	5	▲ 0.0
契約者配当準備金繰入額	38	36	▲ 3.8
四半期純利益又は四半期純損失(▲)	48	▲ 83	—
基礎利益(最低保証に係る要因を除く) ①-②	46	7	▲ 84.6

- (注) 「最低保証に係る要因」は、変額年金保険等における次の金額の合計額です。
 ・最低保証に係る一般勘定の責任準備金の繰入・戻入額
 (平成23年度第1四半期: ▲43億円、平成24年度第1四半期: ▲121億円)
 最低保証に係る一般勘定の責任準備金とは、変額年金保険等の最低保証リスクに備えて積み立てている準備金です。
 最低保証に係る一般勘定の責任準備金を繰り入れた場合は基礎利益を減少させる要因に、また、最低保証に係る一般勘定の責任準備金を戻し入れた場合は基礎利益を増加させる要因になります。
 ・最低保証に係る保険料収入から、年金開始等の際に最低保証のためにん補した額を控除した額
 (平成23年度第1四半期: 8億円、平成24年度第1四半期: 11億円)

3. 主要指標の状況

(単位:億円、%)

区分	平成23年度末	平成24年度 第1四半期会計期間末	前年度末比 増減額
ソルベンシー・マージン比率	486.7	478.8	▲ 7.9ポイント
実質純資産額	4,747	4,649	▲ 98
有価証券の含み損益(一般勘定)	1,374	1,344	▲ 30
総資産	71,681	70,583	▲ 1,097

以上